第6学年　社会科学習指導案

に組　男子19名　女子20名　計39名
指導者　鮫島　純二

1　小単元　源頼朝と武士の世の中

2　小単元について

(1)　小単元の位置とねらい

子どもたちは，これまでに藤原道長をはじめとする貴族の華やかな生活や紫式部などの活躍について調べる学習を通して，天皇中心の国づくりが進められたことや，京都に都が置かれたころに日本風の文化が興っていたことについてとらえてきている。このような学習をしてきている子どもたちは，貴族が衰退した後の世の中の動きや武士のくらしについて問題を追究したいという意欲が高まってきている。

そこで，本小単元では，源平の戦いや，鎌倉幕府の行った政治，武士の登場とそのくらし，元との戦いなどを追究する活動を通して，源頼朝が鎌倉に幕府を開き，武士による政治が始まったことや，幕府の力が全国に及んでいき，武士の勢力が広がっていったことをとらえさせようとするものである。さらに，写真や絵図，年表や文書などを活用し，鎌倉時代の特色を当時の人々の様子と関係付けながら考える力やそれを分かりやすく説明する力を高めていくようにする。また，鎌倉時代の様子を追究することで，我が国の歴史や伝統への興味・関心を高めたり，大切にしていこうとする態度を育てたりしようとするものである。

このような学習は，足利氏を中心とする政治や人々のくらしの様子，現代の生活にも受け継がれ，親しまれている室町時代を発祥とする文化を追究する学習へと発展してくものである。

(2)　指導の基本的な立場

源平の戦いを経て平家を倒し政権をつかんだ源頼朝は，京都から遠く離れた鎌倉に幕府を開き，武士による政治を推し進めていくことになる。武士の力を全国に及ぼすために，武士による政治の仕組みを整えていくことになる。また，御家人との間に「御恩」と「奉公」という強い主従関係を築いていった。所領を認められた御家人たちは，自分たちの土地を守るために「一所懸命」の心構えで平素から武芸に励み，戦など幕府が一大事の時には，家来を率いて「いざ，鎌倉」と命懸けで戦った。このような関係の中で，鎌倉幕府は，承久の乱をはじめ，朝廷との対立を通してさらに勢力を広め，武士の地位を確立していくことなった。

そこでここでは，武士による政治が行われるようになったことをよりよく理解させるために，源氏と平氏との関係や戦い，鎌倉幕府による政治の始まり，武士のくらしぶり，元との戦いを取り上げていく。その際，元との戦い以後の鎌倉幕府の組織体制維持への取り組みをとらえさせるために，幕府と御家人との主従関係や政策の変化について重点的に取り上げ，幕府の御家人への配慮，それに伴う組織の弱体化や主従関係の揺らぎを具体的に追究できるようにする。

そのために，まず，年表や源平の戦いの勢力変遷図を基に，源氏が優位に立ち，平氏が衰退，没落してくことで，貴族社会が崩壊し平氏にかわって源氏が政治の実権を握っていった経緯を追究させる学習を基に，「武士が力をもち，世の中を治めるようになったのはどうしてか」という問題意識をもたせたい。

次に，一人一人の予想を基に，自分なりの見方や考え方を生かした追究計画を立てさせ，年表や絵図，地図等の資料を基に，自分なりに気付いたことを「鎌倉幕府の政治」「武士のくらし」「元との戦い」の追究の柱からグループや全体で話し合わせる。そして，**幕府と御家人の土地を仲立ちにした「御恩」と「奉公」という主従関係，守護や地頭などといった地方への影響力を及ぼすような組織や決まりを築いていったことを絵図で構造的に示したり，年表に整理・再構成させたりして歴史新聞にまとめさせ，武士が力を強め，政治を行うようになってきたことを「論述」させる。**

このような学習を通して，子どもたちは武士による鎌倉幕府の政治の始まりや武士のくらしにつ

いて分かる楽しさや喜びを味わいながら，鎌倉時代の様子に対する見方や考え方を深め，広げたり，我が国の歴史や伝統についての関心・意欲や理解を深めたりすることになる。

(3) 子どもの実態（調査人数 38 名，質問紙法，重複回答，主な質問事項のみ記述）

1　鎌倉時代で知っている人物
　源頼朝(7)，源義経(5)，北条政子(3)，
　北条時宗(3)，後醍醐天皇(2)
2　鎌倉時代の世の中の様子
　戦争(10),幕府成立(5),武士による政治(2)
3　武士による政治が始まったわけ
　武士の地位の向上(5),戦で力を付ける(3)
4　鎌倉時代で学習したいこと
　人物の様子(31),出来事(13),
　くらしの様子(8),政治(2)
5　資料活用力
○「くらし」「産業」を追究する時の資料と着眼点
　①絵や写真…全体的傾向(5),人物の行動(5),
　　周囲の状況(4)
　②年表…出来事(16),変遷(5),時代(3)
　③グラフ…変化(22),特徴(6),量(5)
　④地図…地形(18),広がり(13),場所(11)
　⑤文書…書かれてある事実(17),
　　背景や因果関係(3)
6　期待する活用の仕方
　歴史新聞作り(21),人物・遺産ポスター(12),
　ノート・レポートまとめ(8),年表(5)

この学級の子どもたちの鎌倉時代についての見方や考え方は次の通りである。

子どもたちは，鎌倉時代の代表的な人物として，源頼朝や源義経などをあげているが，一部に限られている。また，武士による政治の始まりや鎌倉時代の様子についても具体的にとらえられている子どもが少ない。そこで，前の時代とのつながりの中で，政権が貴族から武士へと移行した経緯や原因を考えさせるとともに，武士による政治の仕組みができたこと，戦いに備え質素，倹約を旨とするくらしを営んでいた武士と幕府との関係について，地図や関係図などを基にして明確にしていきながら，武士のくらしと思いとの関連を考えられるようにしていきたい。さらに，この時代の学習については，人物や世の中の出来事に関心が高いことから，鎌倉時代に起きた主な出来事を，代表的な人物の生涯や業績と結び付けて考えさせ，武士による政治の基盤が固められた鎌倉時代の特色をとらえさせていくようにする。

そして，絵図や年表，地図などの多様な資料を基に，自分の考えを支える根拠を明らかにしながら話し合わせることで，より確かな自分の考えを発表したり，ノートにまとめたりできるような「説明」できる場を設定する。そして，この単元で身に付けた歴史的な見方や考え方を深め，広げるとともに，基礎的・基本的内容の定着を図っていきたい。

(4) 指導上の留意点

以上のことを踏まえて，指導に当たっては，次のようなことに留意したい。

単元の追究過程においては，「源平の戦い」「鎌倉幕府による政治」「武士のくらし」「元との戦い」という柱で，これまでの学び方を生かしたり，平安時代の特色と比較したりしながら主体的に追究させていく。その際，武士による政治が確立され，幕府と御家人との主従関係をよりよく理解させるために，絵図や写真，地図などを活用させながら，鎌倉幕府が開かれて仕組みが整う様子や主な出来事に伴う政治やその変遷について考えさせる。その際，元との戦いに関する歴史的事実を重点的に扱い，土地を仲立ちとした幕府と御家人との強固な主従関係をより具体的にとらえさせるようにする。

ア　まず，保元の乱や平治の乱で武士が政治的な解決を図った事実や源平合戦の頃の年表や勢力図等を基に，政治の勢力が貴族から平氏や源氏といった武士へ移行していった事実をとらえさせる。次に，源頼朝に関する年表や鎌倉時代初期の守護の分布図から，源氏が幕府を開き全国にその勢力を広げようとした事実を基に，「幕府は，なぜこのように力を付けてきたのだろうか。」という問題意識をもたせ，幕府の政治の仕組み，武士のくらしの様子などについて追究してきたいという意欲を高めていきたい。そして，子ども一人一人の予想を話し合わせながら追究計画を立てさせ，自分なりの考えを基に見通しをもって追究する喜びを味わわせていきたい。

イ　頼朝の開いた鎌倉幕府が武士中心の政治を確立する様子を明らかにするために，まず，源平合戦での戦いの様子から，源氏が，それまで貴族の政治を踏襲し権勢を誇っていた平氏を倒して鎌倉幕府を開いたことを追究させる。次に，鎌倉市付近の鳥瞰図などを基に，鎌倉の地に幕府を開いた理由を考えさせたり，幕府の組織図や御家人との関係図を基に，土地を仲立ちにした主従関係や，鎌倉と地方とをつなぐ政治の仕組みをとらえさせたりする。また，貴族の生活と比較させながら武士のくらしが質素なものであったことをとらえさせていく。そして，元との戦いの様子から，強い主従関係の基，国難に立ち向かっていった武士の精神をとらえさせていきたい。

ウ　追究した結果，自分なりに分かった鎌倉時代の特色を吟味させたり，武士に対する見方や考え方を振り返らせたりしながら，歴史新聞にまとめさせる。**その際，単元の学習で習得した知識や技能を活用できるように，鎌倉時代を中心とした代表的な人物同士の関係を整理・再構成させながら取り組ませていく。**

3　目　標

(1)　武士の政治やくらしに関心をもち，鎌倉時代の特色について学習を振り返りながら主体的に取り組むことができる。

(2)　鎌倉幕府と武士の関係，武士のくらし，元との戦いの様子等を調べ，時代背景やそれぞれの歴史的事象を関係付けて考え，適切に表現することができる。

(3)　自分の調べたことや考えたことを明確にしていくために，武士が力を付けてきた鎌倉時代の特色について年表や絵図等に表したり，歴史新聞にまとめたりすることができる。

(4)　源頼朝の築いた鎌倉幕府は，守護・地頭を置いて全国を支配する政治体制を確立するとともに，御家人と土地を仲立ちにして「御恩」と「奉公」の主従関係を結んでいったことや，元との戦いにおいて全国の武士を集め，国難を解決しようとしたことをとらえることができる。

4　指導計画（全８時間）

学習過程	主な学習活動	学び合う喜びや楽しさの深まり	教師の具体的な働きかけ
つかむ① 立てる① 調べる ④ まとめる・広げる② 1　源平の戦いの様子について調べ，武士が力を付けてきた様子を基に学習問題を設定する。 源頼朝が開いた鎌倉幕府は，なぜ力を付けていくことができたのだろうか。 2　学習問題に対する予想を基に，調べる内容や方法について話し合う。 3　源平の戦いについて調べ，話し合う。 貴族社会→平氏→源氏→鎌倉幕府（武士の世の中） 4　源頼朝の目指した武士中心の政治について調べ，話し合う。 鎌倉幕府の政治 鎌倉の地：政所・侍所・問注所 将軍【御恩】↓↑御家人【奉公】 地方：守護・地頭・六波羅探題 5　貴族のくらしと比較しながら，鎌倉時代の武士のくらしの様子について調べ，話し合う。 衣・食・住／半農半武／質素倹約／一所懸命／武士の気質／武芸の鍛錬 6　元との戦いが鎌倉幕府や御家人にどのような影響を与えたのかを調べ，話し合う。〈本時〉 文永・弘安の役 <元軍>：大群での来襲／集団戦法・火薬／暴風雨の被害 <幕府軍>：北条時宗の活躍／石塁の設置／必死の抵抗 〔大陸への撤退〕〔御家人の負担増〕 御家人の不満，幕府不信 鎌倉幕府の衰え 7　これまでの学習を振り返り，歴史新聞にまとめる 幕府は，土地を仲立ちとした関係を基に，全国を支配する体制を整えてきたが，元との戦いで力が衰えるきっかけとなった。	なぜ，武士が活躍する世の中になっていったのだろうか。 鎌倉幕府はどのようにして力をもつようになったのかな。 これまでの貴族の政治や暮らしぶりと違うのだろう。 貴族の社会から，源氏が平氏を倒し，武士の世の中になっていったのだな。 京都から離れた自然の要塞となっている鎌倉に幕府を開いたんな。 土地を仲立ちにして強い主従関係で結ばれていたんだな。地方とのつながりがあり，影響力も強かったのだな。 貴族に比べて，質素な生活を大切にし，幕府の一大事に備えて農業や武芸の練習にも励んでいたのだな。 元との戦いでも，全国から武士が集まり，幕府の力が強いことが分かるな。 戦い方の違いに戸惑いながらも，一所懸命に戦い，元軍を退けたんだな。 元との戦いには買ったのだけれど，「御恩」と「奉公」の関係が崩れていき，それが幕府衰退のきっかけになったのだな。 調べて分かったことや考えたことを新聞などにまとめてみよう。	㊟　絵図（保元，平治の乱の様子，源平合戦勢力図，鎌倉時代の守護の分布図） ㊟　年表（鎌倉時代とその前後） ○　貴族に代わり武士が政治の中心になってきたことに問題を焦点化するために，武士の勢力が強まる中，源氏が台頭して鎌倉幕府を開いてきたことを考えさせる。 ○　これまでの学習の進め方や資料活用力を生かして追究できるようにするために，「源平の戦い」「幕府の政治」「武士のくらし」「元との戦い」の柱を基に，学習の見通しをもたせられるようにしていく。 ㊟　地図（日本全図，鎌倉市鳥瞰図） ㊟　図（鎌倉幕府の組織） ○　鎌倉幕府が，これまでの時代との政治の進め方と異なるやり方で世の中を治めていこうとしたことをとらえさせるために，鎌倉の地が都から離れた位置にあること，自然の要塞の役割を果たしていたことを考えさせる。 ○　幕府が全国を支配する勢力を築いていったことをとらえさせるために，鎌倉や地方の役職とその役割について着目させ組織についてとらえさせる。 ㊟　絵図（貴族・武士の館，男衾三郎絵詞） ○　自分の土地を守りながら幕府の一大事に備え，武芸の練習や質素な生活をしていることをとらえさせるために，平安の貴族と鎌倉の武士のくらしを比較したり，幕府と御家人との関係を基に考えさせたりする。 ㊟　写真（石塁） ㊟　蒙古襲来絵詞 ○　幕府や自分の土地を守るために一所懸命の精神で戦い抜いた武士の様子をとらえさえるために，元との戦いや石塁の構築に全国の武士がかかわっていた事実を基に考えさせる。 ○　御家人が元の軍勢とどのように戦ったのかをとらえさせるために，戦い方の様子に着目させ，武士と元との戦い方の違いについて話し合わせる。 ○　鎌倉幕府と御家人との主従関係が弱まり，幕府の力が衰退していったことに気付かせるために，**十分な恩賞が与えられなかった事実を基に，それに対する御家人の不満について考えさせる。** ○　幕府と武士の強い結び付きを中心とする時代の特色をとらえさせるために，学習したことを振り返らせ，歴史新聞に構造的にまとめさせるようにする。

5　本　時（6／8）

(1)　目　標

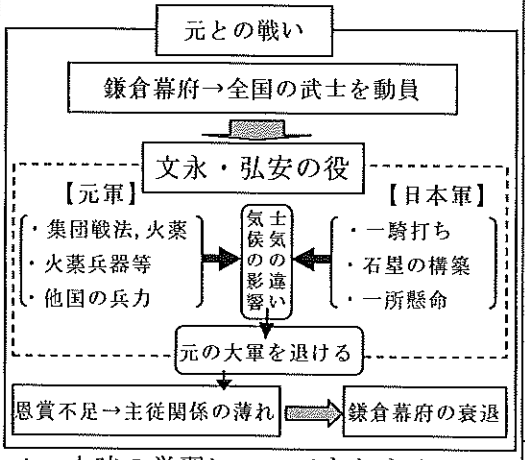
ア　幕府と御家人との主従関係を基に，元の大軍を防ぐことができたことや，そのことが幕府の衰退していくきっかけになっていったことについて意欲的に追究することができる。

イ　これまでの強い主従関係を基に元との戦いに参加した御家人が，十分な恩賞が得られずに幕府に対して不満を抱え，幕府との結び付きを弱めていったことをとらえることができる。

(2)　本時の展開にあたって

本時の展開にあたっては，元の大軍との厳しい戦いを通して，幕府や所領のために一所懸命に戦った御家人への恩賞が十分ではなかったこと，武士自身の生活も困窮していったことをとらえさせるために，**御家人に対する幕府の取った政策を基に，それまでの主従関係が崩れることになり，鎌倉幕府の衰退につながっていったことを説明できるようにしていきたい。**

(3)　実　際

学習過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
追究問題の具体化	1　本時における追究問題を確認し，具体化する。 武士は，どのようにして元と戦ったのだろうか。また，それは武士たちにどんな影響を与えたのだろうか。	(分) 8	㊟　文書（元の国書），地図（元の勢力） ○　元が日本に攻めてくる経緯をとらえさせるために，大陸で元が，周囲の国々を征服し，勢力を伸ばしていったことから，当時の日本と元との関係を考えさせる。
追究計画	2　学習の進め方や資料について話し合う。 ○　グループによる話し合い→全体での話し合い ○　教科書，資料集，地図帳		○　本時の学習の進め方を明確にし，見通しをもった追究活動ができるようにする。 ㊟　地図（元軍の進路図），図（元軍と日本軍の規模）
追究問題の究明	3　元との戦いの様子について調べ，話し合う。 (1)　2度にわたる戦いの経緯や様子について調べ，話し合う。 (2)　戦いの後の国内の様子について調べ，話し合う。  	30	○　元との戦いが激しいものであったことや，元の兵士と日本の武士がどのように戦ったのかをとらえさせるために，戦い方や武器などを比較させながら話し合わせる。 ㊟　絵図（蒙古襲来絵詞の戦いの様子） ○　幕府と御家人との強固な主従関係の基，国難に対応したことをとらえさせるために，元の再度の襲来に備え，全国の武士に命じて防衛体制を整えていったこと，武士はどんな思いをもちながら石塁を築いていたのかを考えさせる。 ㊟　写真（石塁）
まとめ	4　本時の学習についてまとめる 武士は一所懸命に元と戦いこれを退けた。しかし，十分な恩賞が得られず主従関係が崩れ，幕府が衰退した。 5　次時の学習について話し合う。 ○　単元の学習まとめと歴史新聞の作成	7	㊟　年表（元との戦い以後），文章（徳政令） ○　**幕府の力が衰退していったことをとらえさせるために，戦い後の政策や幕府滅亡までの年数に着目させ，御家人との主従関係が崩れていったことを考えさせる。** ○　幕府の勢力衰退の様子を明確にさせるために，幕府と御家人との関係の変化を考えさせた「説明」をまとめさせる。